

小項目ごとの評価に関する評価委員会の検討結果

資料2

「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する小項目評価

評価番号	評価項目	自己評価		委員会意見	判断理由・コメント
【1】	救急医療（総合医療センター）	Ⅳ	=	Ⅳ	●救急医療については、小児重篤症例の対応を含め、積極的な受け入れに努め、三次救急取扱件数は目標・昨年実績ともに上回った。なお、救急車搬送件数については、1月～3月に新型コロナウイルス感染症の影響を受け昨年実績をやや下回ったが、目標は上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【2】	周産期医療（総合医療センター）	Ⅲ	=	Ⅲ	●ハイリスク妊産婦ならびにハイリスク新生児の受け入れに努め、目標指標であるOGCS取扱件数は目標及び前年度を大幅に上回り、NMCS取扱件数は目標をわずかに下回ったが、1,000g未満の超低出生体重児の対応件数は前年度を上回るなど、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【3】	小児医療（総合医療センター）	Ⅲ	=	Ⅲ	●小児医療については、目標指標である小児がん登録件数が目標に届かなかったが、前年度を上回っており、小児がん拠点病院として、広域からの受け入れを積極的に行い、AYA世代病棟の入院患者数も前年度を上回るなど、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【4】	がん医療（総合医療センター）	Ⅳ	=	Ⅳ	●がん医療については、がん入院患者数が目標にやや届かなかったものの、他の数値目標は目標を大きく上回っており、様々ながん患者に対して適切な医療を提供し、年度計画どおり役割に応じた医療の提供を着実に実施したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【5】	その他の医療（総合医療センター）	Ⅲ	=	Ⅲ	●精神科救急・合併症受入件数については、目標には達しなかったものの、概ね前年度並みとなった。低侵襲治療実施件数のうち、TAVIについては目標を下回ったが、内視鏡手術支援ロボットは年度途中で2台体制に移行したこともあり、目標を大幅に上回った。また、新型コロナウイルス感染症患者の対応などについては、求められる役割を果たしたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【6】	結核医療（十三市民病院）	Ⅲ	=	Ⅲ	●結核医療については、3月に新型コロナウイルス感染症の陽性患者受け入れに向けて、結核入院患者を他院に転院させた影響を受け、延入院患者数は目標・前年度に達することができなかったが、合併症を有する新入院患者数は目標を上回り、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【7】	その他の医療（十三市民病院）	Ⅲ	=	Ⅲ	●目標指標である救急車搬送件数及び地域医療機関からの緊急診療要請対応件数は、1月～3月に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、救急搬送等の減少が見られたことにより目標に届かなかったが、内科系二次救急の受け入れや緊急診療要請への対応等、求められる役割を果たしたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【8】	その他の医療（住之江診療所）	Ⅲ	=	Ⅲ	●住吉市民病院の廃止後、小児・周産期における一次医療に対応するため、敷地内に住之江診療所を設置し、引き続き地域医療の確保に努めたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【9】	災害時の対応	Ⅲ	=	Ⅲ	●災害拠点病院である総合医療センターを中心として十三市民病院とも連携し、各種防災訓練等に積極的に参加するとともに、DMAT隊の災害対応能力の向上に向けた取り組みや、外部関係機関との連携確認など、災害拠点病院としての責務を果たすための体制整備を進めたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

【10】	研究機能の強化	Ⅳ	=	Ⅳ	●目標指標である臨床研究（新規）実施件数が目標を上回り、企業治験実施件数や医師主導治験実施件数も目標及び前年度を上回り、厚生労働省や文部科学省の科学研究費助成制度等による共同研究にも積極的に取り組んでいることから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【11】	医療安全対策等の徹底	Ⅳ	=	Ⅳ	●目標指標であるインシデントレポート報告件数について、制度周知が徹底され、報告に対する意識が高まったことから、総合医療センター・十三市民病院とも目標・前年度を上回り、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【12】	医療の標準化	Ⅲ	=	Ⅲ	●目標指標であるクリニカルパス適用率について、総合医療センターは目標に達しなかったものの、十三市民病院は目標・前年度を達成した。 また、医療の標準化に対する取組みについて、研修会の開催など、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【13】	チーム医療の実践及び専門性の発揮	Ⅳ	=	Ⅳ	●目標指標とした項目について、積極的に取り組んだ結果、多くの項目で目標・前年度を上回った。 また、各病院において、QOL向上のための取り組みや、倫理的問題の課題解決に向けた対応、チーム医療の一層の推進など、患者中心の医療を徹底し、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【14】	意思決定支援	Ⅲ	=	Ⅲ	●各現場での説明方法の工夫や、セカンドオピニオンの実施など、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【15】	医療倫理観の向上	Ⅲ	=	Ⅲ	●多職種・専門チームでの倫理的問題への取り組みなど、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【16】	患者満足度の向上	Ⅲ	=	Ⅲ	●目標指標である患者満足度調査結果については、十三市民病院の外来で目標値を下回ったものの、総合医療センターの外来では目標値を上回り、入院は総合医療センター、十三市民病院共にほぼ前年度と同程度であった。患者アンケートの項目の見直しやアンケート結果の反映、ボランティアからの意見聴取など、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【17】	地域医療機関との連携	Ⅳ	=	Ⅳ	●目標指標である紹介率・逆紹介率は、総合医療センター、十三市民病院とも目標を上回った。 また、地域医療機関との連携については、積極的に活動し連携の強化に努め、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【18】	全世代を対象とする 地域包括ケアシステム	Ⅳ	=	Ⅳ	●目標指標であるPFM取扱件数は、総合医療センター、十三市民病院とも目標を大幅に上回った。 また、地域医療機関等との連携強化や入院前問診対象の拡充など、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【19】	市民への保健医療情報の提供・発信	Ⅲ	=	Ⅲ	●市民公開講座等の開催に積極的に取り組み、様々な手法を用いて情報の提供・発信に努めるとともに、市民を対象とした公開講座の開催を計画どおり実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【20】	優れた医療人の育成・確保	Ⅲ	=	Ⅲ	●実習受け入れの継続や資格取得支援の実施、研修医等の指導環境の整備など、優秀な人材の確保・育成に向け積極的に取り組んだ。 また、職員のワークライフバランスの支援について、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

「業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善」に関する小項目評価

評価番号	評価項目	自己評価		委員会意見	判断理由・コメント
【21】	自律性・機動性・透明性の高い組織体制の確立	Ⅲ	=	Ⅲ	●総合医療センターにおいて、病院幹部から実務責任者までが参画するPTを独法化以降継続的に開催し、様々な課題等について検討・改善を図ってきた。また、業務執行におけるコンプライアンスの徹底を目的とした研修の開催や、第三者による監査の実施など、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【22】	収入の確保	Ⅳ	=	Ⅳ	●各病院において、増収のための体制の充実及び適正化に向け取り組み、十三市民病院では、目標を下回った項目が多かったが、総合医療センターにおいては全ての目標指標を上回った。また、診療単価の向上に向け、入退院支援体制の充実や請求漏れ・査定防止対策などに積極的に取り組んだ結果、診療単価の多くが前年度を上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【23】	給与費比率の改善	Ⅳ	=	Ⅳ	●費用対効果を踏まえた職員配置に取り組むなど、給与費の適正化に努め、機構全体として給与費比率が低減したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【24】	材料費比率の改善	Ⅲ	=	Ⅲ	●後発医薬品の採用促進や、診療材料の同種同効品への切替の推進、共同購入の取り組みなど、材料費の縮減に向けた取り組みについて、計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【25】	経費比率の改善	Ⅳ	=	Ⅳ	●業務委託契約における競争的契約候補者決定法の採用など、多様な契約手法の活用を進め、経費の節減に取り組み、機構全体として経費比率が低減したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【26】	医業収支比率等の改善	Ⅳ	=	Ⅳ	●目標指標である自己資本比率は、目標を上回り、経常収支比率及び医業収支比率は、十三市民病院は目標・前年度に達しなかったものの、総合医療センターは目標・前年度を大きく上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

評価全体に対する評価委員会の意見

- 新型コロナウイルス感染症の影響について、令和元年度の評価を行う上でその影響を受けていない時期で評価するなど、適切に評価されたい。
- また、令和2年度の目標については、大きく変更が必要な項目が多く存在するため、直近の状況を踏まえ、適切な目標設定となるよう再検討するなど、その達成度合いをきちんと評価できるよう努められたい。